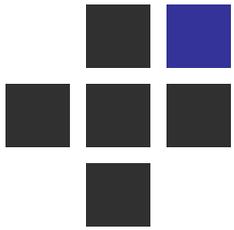


八戸圏域定住自立圏の 取組について

八戸市総合政策部次長

大坪 秀一

OTSUBO Shuichi



はじめに ～八戸市について

- ①人口:約24万5千人
【青森県第2の都市】
- ②商圏人口:約67万人
【県南～岩手県北～秋田県北東部】
- ③商品販売額:8,254億円(H19)
【青森県第2】
- ④製造品出荷額等:5,857億円(H19)
【北東北最大の工業都市】
- ⑤水揚げ量:13.9万トン(H21)
【全国3位の水産都市】
- ⑥コンテナ取扱量:40,326TEU(H21)
【東北第3の港湾物流都市】



【八戸市】

青森県の南東部に位置し、人口約24.5万人の、県内最大の工業出荷額を誇る工業都市、全国有数の水揚げ量を誇る水産都市、さらには、国際コンテナ定期航路を有する北東北の物流拠点都市として発展。

八戸圏域定住自立圏の構成市町村

八戸圏域定住自立圏

中心市は
八戸市

- ・ 八戸市
- ・ 三戸町
- ・ 五戸町
- ・ 田子町
- ・ 南部町
- ・ 階上町
- ・ 新郷村
- ・ おいらせ町

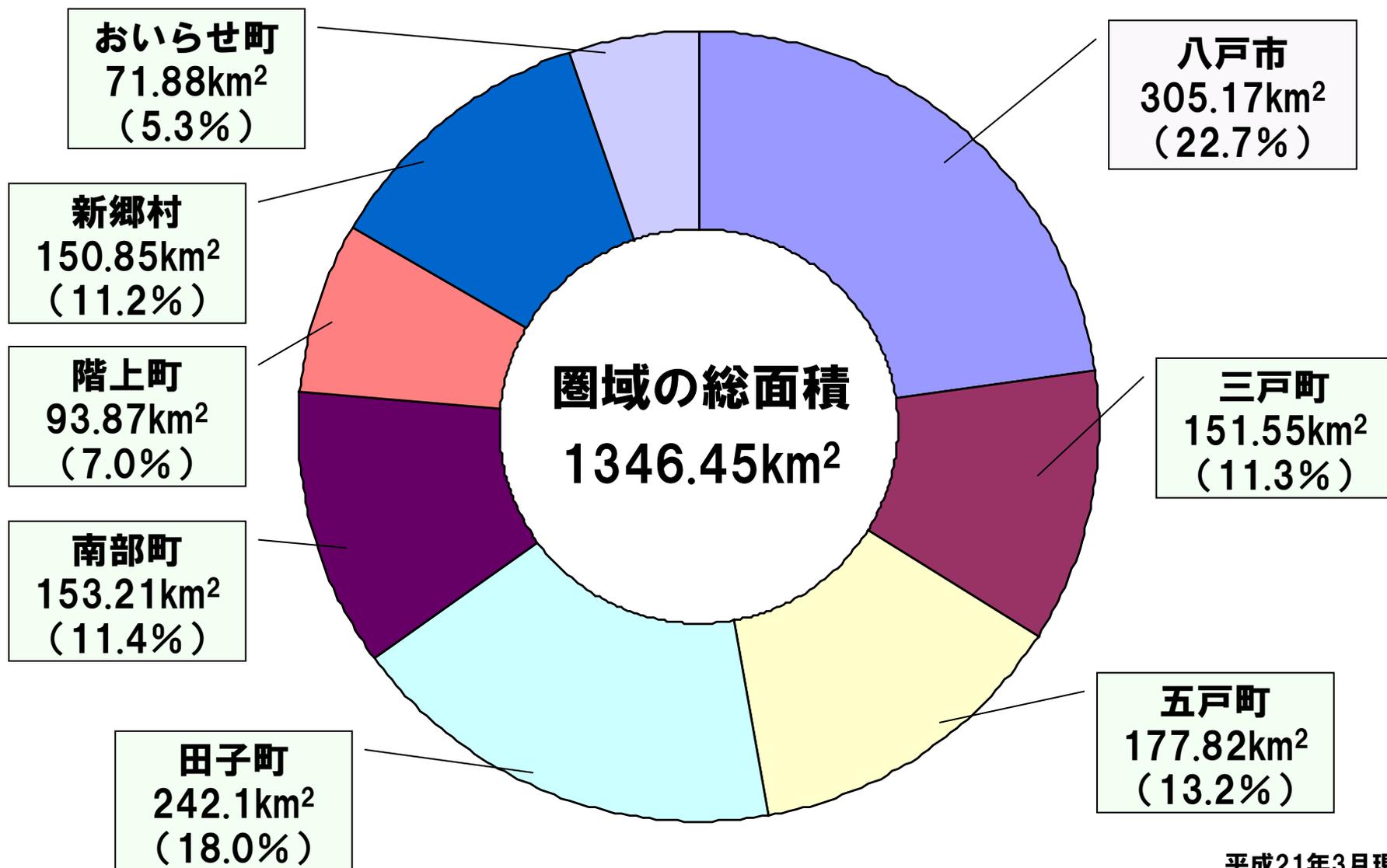
8市町村（1市6町1村）

■ 八戸圏域定住自立圏の背景

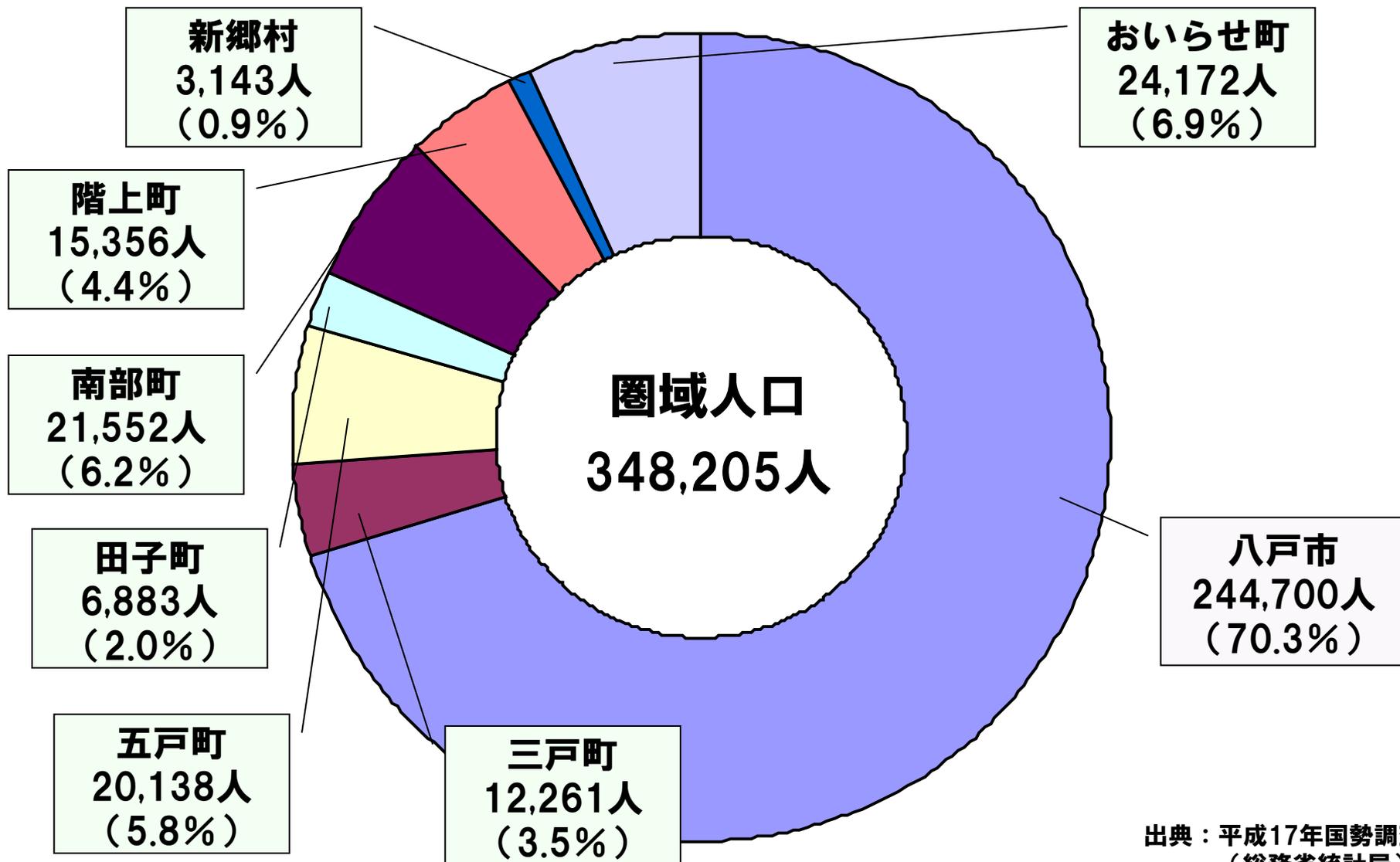
- ①当圏域は、古くは藩政時代（南部藩）のころから、長い歴史を共有し、共通の文化・習慣があること。
- ②八戸市を中心とした生活圏（通勤・通学圏、医療圏、商圏など）がすでに形成されていたこと。
- ③同じ8市町村による一部事務組合の設置（S46～）など、圏域の広域的課題（広域消防・ごみ焼却処理等）に対し、以前から一体となって取り組んでいたこと。

圏域内の住民・企業・行政の協働・連携による
持続可能な地域社会＝定住自立圏の形成

八戸圏域の面積



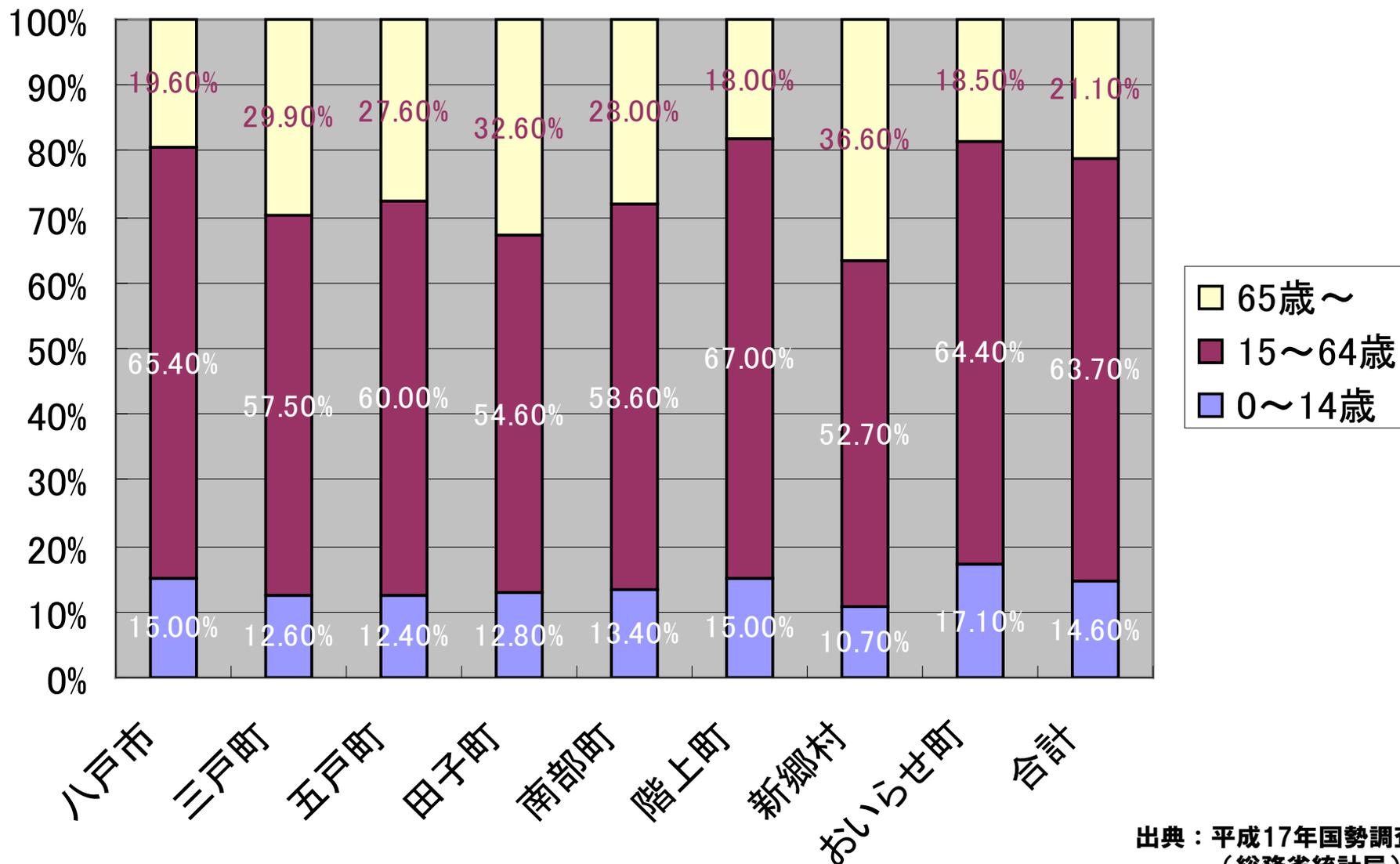
八戸圏域の人口



出典：平成17年国勢調査
(総務省統計局)



八戸圏域の年齢別人口構成比率



八戸圏域の高齢化率

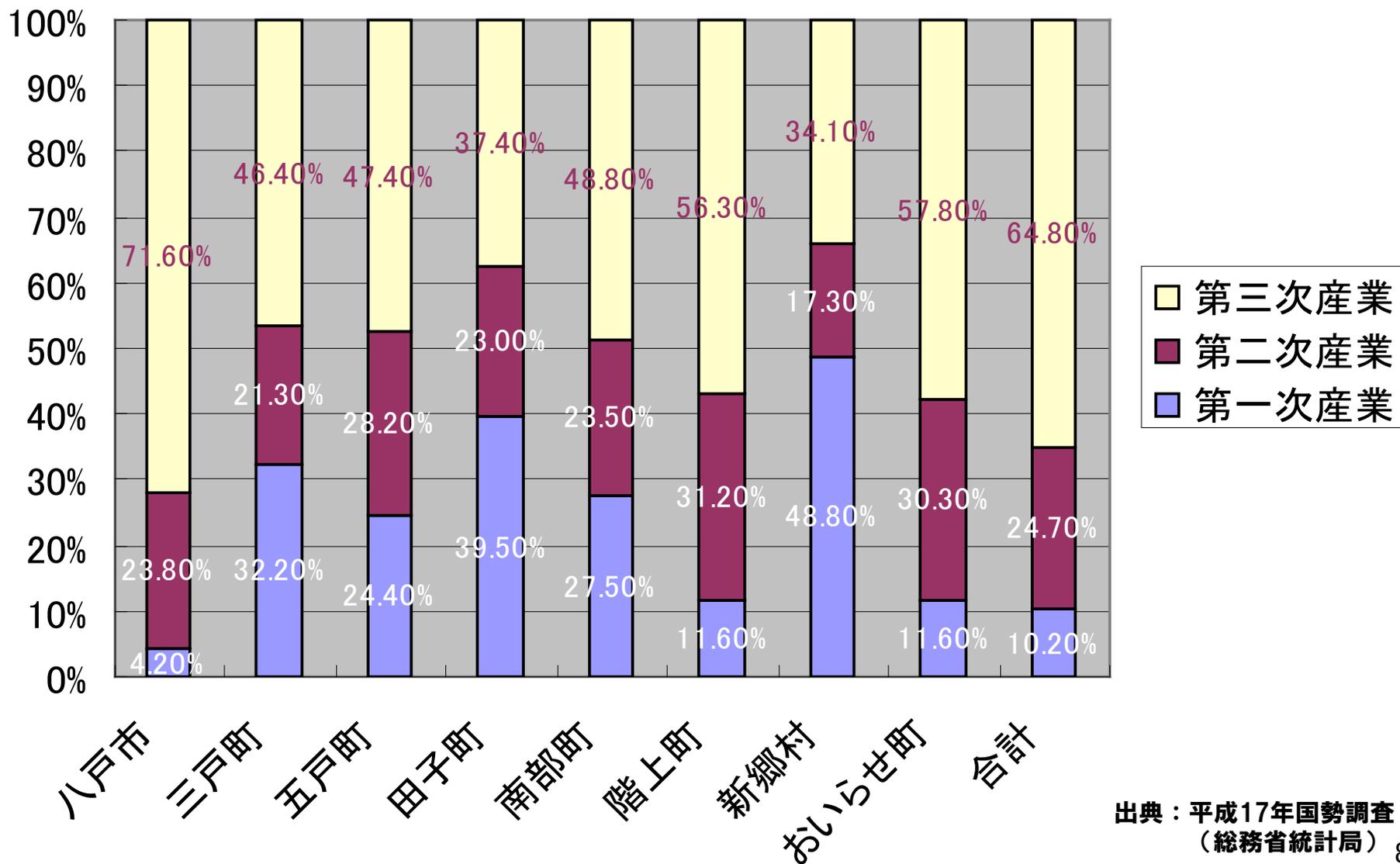
	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平17-昭60 (単位:ポイント)
八戸市	7.8%	10.0%	12.7%	16.1%	19.6%	11.8
三戸町	13.5%	17.0%	21.7%	25.8%	29.9%	16.4
五戸町	12.9%	16.0%	19.9%	24.0%	27.6%	14.7
田子町	13.9%	17.7%	21.8%	27.1%	32.6%	18.8
南部町	12.9%	16.4%	20.5%	24.5%	28.0%	15.1
階上町	9.2%	10.9%	12.8%	15.1%	18.0%	8.8
新郷村	15.0%	20.3%	26.2%	32.2%	36.6%	21.6
おいらせ町	10.4%	13.0%	14.5%	16.3%	18.5%	8.1
計	9.1%	11.6%	14.4%	17.8%	21.2%	12.1

出典：国勢調査（総務省統計局）



**全国的傾向と同様、昭和60年⇒平成17年の20年で
圏域の高齢化率（65歳以上の割合）は2倍以上に！**

八戸圏域の産業別人口構成比率



■ 八戸圏域の昼夜間人口比率

八戸市 105.3%

南部町 85.3%

三戸町 100.3%

階上町 70.0%

五戸町 90.6%

新郷村 93.0%

田子町 97.6%

おいらせ町 87.9%

■ 八戸圏域定住自立圏形成の経過

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| 平成20年10月28日 | 先行実施団体に選定 |
| 21年 2月23日 | 第1回定住自立圏関係市町村長会議 |
| 3月19日 | 「 中心市宣言 」(八戸市) |
| 8月18日 | 第2回定住自立圏関係市町村長会議 |
| 9月 7日~17日 | 定住自立圏形成協定の締結について、各市町村議会でそれぞれ議決 |
| 9月24日 | 定住自立圏形成協定合同調印式 |
| 10月~ 22年 2月 | 定住自立圏共生ビジョン懇談会(計4回) |
| 2月22日 | 第3回定住自立圏関係市町村長会議 |
| 〃 | 八戸圏域定住自立圏共生ビジョン策定 |

八戸圏域定住自立圏形成促進議員連盟

平成21年9月、**全8市町村の超党派議員連盟**発足

八戸圏域定住自立圏の形成を後押し

◎「定住自立圏の形成に関する講演会」(八戸市主催)への参加

- ・ 圏域の相互理解を深めるため、各市町村議会議員、各市町村職員等を対象に、国の担当者や有識者等を講師に招いた講演会を市が定期的を開催。

- ・ 21年9月 八戸市
- ・ 11月 南部町
- ・ 22年2月 八戸市
- ・ 5月 五戸町
- ・ 7月 階上町(予定)

八戸圏域が抱える課題

①暮らしを支える生活関連サービスに関する課題

- ・ 医師不足による医療サービス低下
- ・ 公共交通（バス等）の維持・確保
- ・ 情報ネットワーク基盤整備の格差
- ・ 自己実現のための諸活動の環境格差
など

②雇用の確保と農林業に関する課題

- ・ 世界的不況による厳しい雇用情勢、工場等の撤退、進まない企業立地
- ・ 農林業の担い手不足による就業者の高齢化、耕作地放棄
- ・ 農産物の高付加価値化対策
など

③交流人口の拡大に関する課題

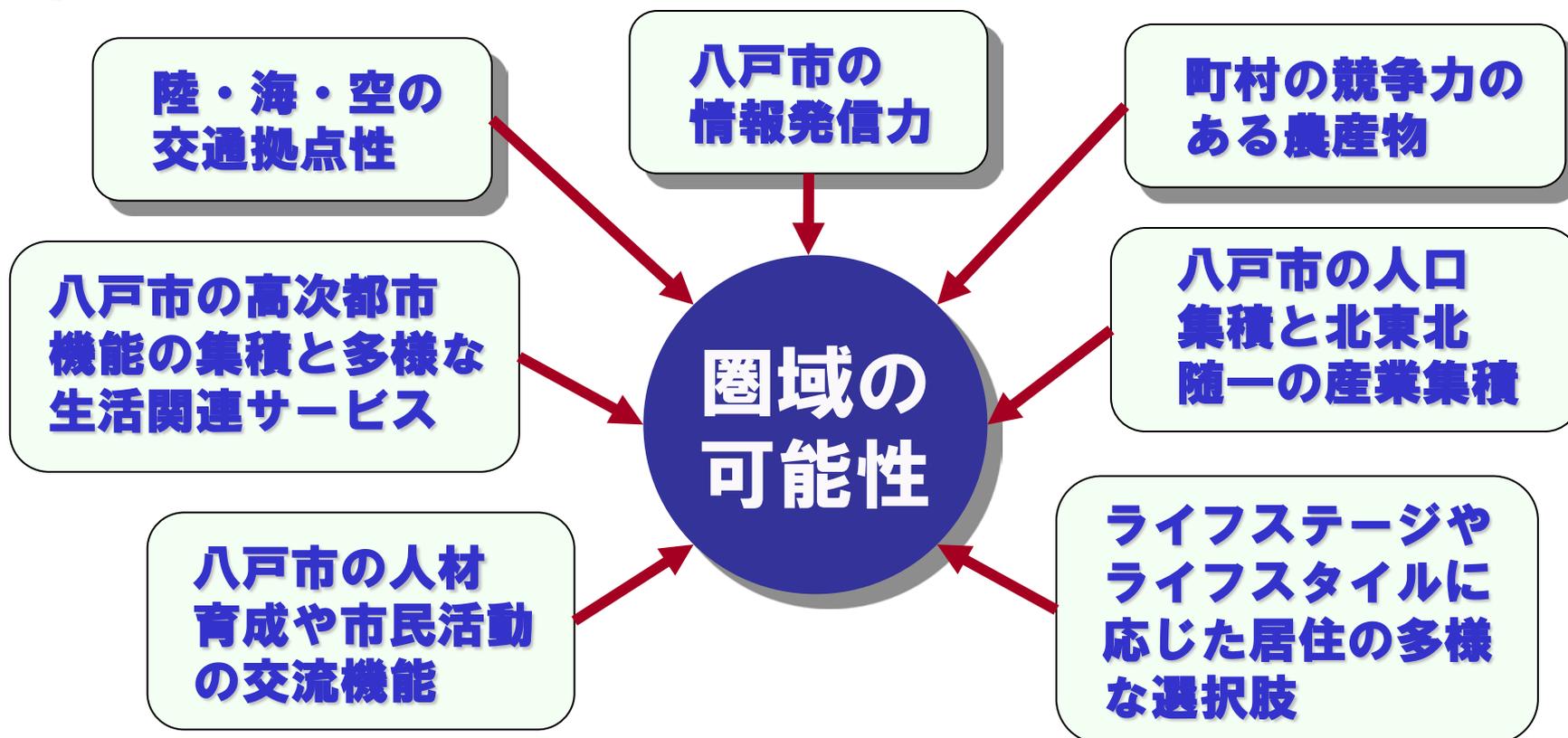
- ・ グリーンツーリズムのさらなる展開
- ・ 農業以外の地域資源の発掘及び人材確保と体制整備
- ・ 地域資源の有機的連携による交流人口の拡大と移住促進
など

④地域づくりを担う人材の育成に関する課題

- ・ 町村職員の研修機会の確保
- ・ NPO等のまちづくりを担う人材の確保
- ・ 官民を問わず、まちづくりを担う人材の育成
など

八戸圏域のポテンシャル

北東北の中核都市である八戸市がもつ都市機能集積と、圏域を構成する市町村がそれぞれにもつ地域資源や地域特性を連携させ、情報発信する力を一層高めることにより、圏域全体としての魅力の向上が期待される。



八戸圏域の将来像

生活機能の強化

- ・暮らしの安心の確保
- ・地域の活力の向上
- ・暮らしの魅力の充実

人・産業が元気で
活力・魅力を創造・発信する
北東北の中核都市圏

- ・広域的な交通・情報ネットワークの確保
- ・圏域内外の交流の促進

- ・地域づくりを支える多様な担い手の育成・確保

結びつきやネットワークの強化

圏域マネジメントの強化



八戸圏域定住自立圏 具体的取組の概要

医師派遣事業

●連携市町村 八戸市、三戸町、五戸町

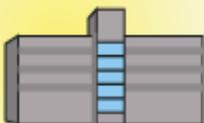
地域医療体制の充実をめざし、五戸総合病院、三戸中央病院を対象に八戸市立市民病院から医師を派遣する。

医師派遣事業の仕組み

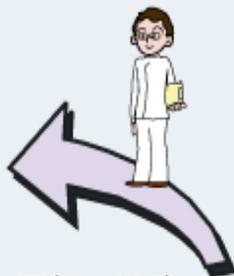
身近に適切な医療サービスを受けられる環境を実現



自治体病院



自治体病院



医師の派遣



八戸市立市民病院

- ・中核病院としての医療機能の維持
- ・圏域全体に高度な医療サービスを提供



■ 救急医療体制の充実

平成22年3月29日から、ドクターカーの運行を開始。

- 連携市町村 全市町村
- 配置先 八戸市立市民病院（ドクターヘリと併用）
- 出 動 傷病の程度に応じて、消防本部が要請
※直接市民が呼ぶことはできない。
- 運行実績

☆H22.3.29～4.12（15日間）の状況

- ・ 出動要請 21回（うち出動20回）
※1日平均1.4回
- ・ 出動20回のうち
 - 八戸市内 17件
 - おいらせ町 1件
 - 階上町 2件
 - 五戸町 1件



八戸市民病院に配備したドクターカー

■ 周産期医療体制の充実

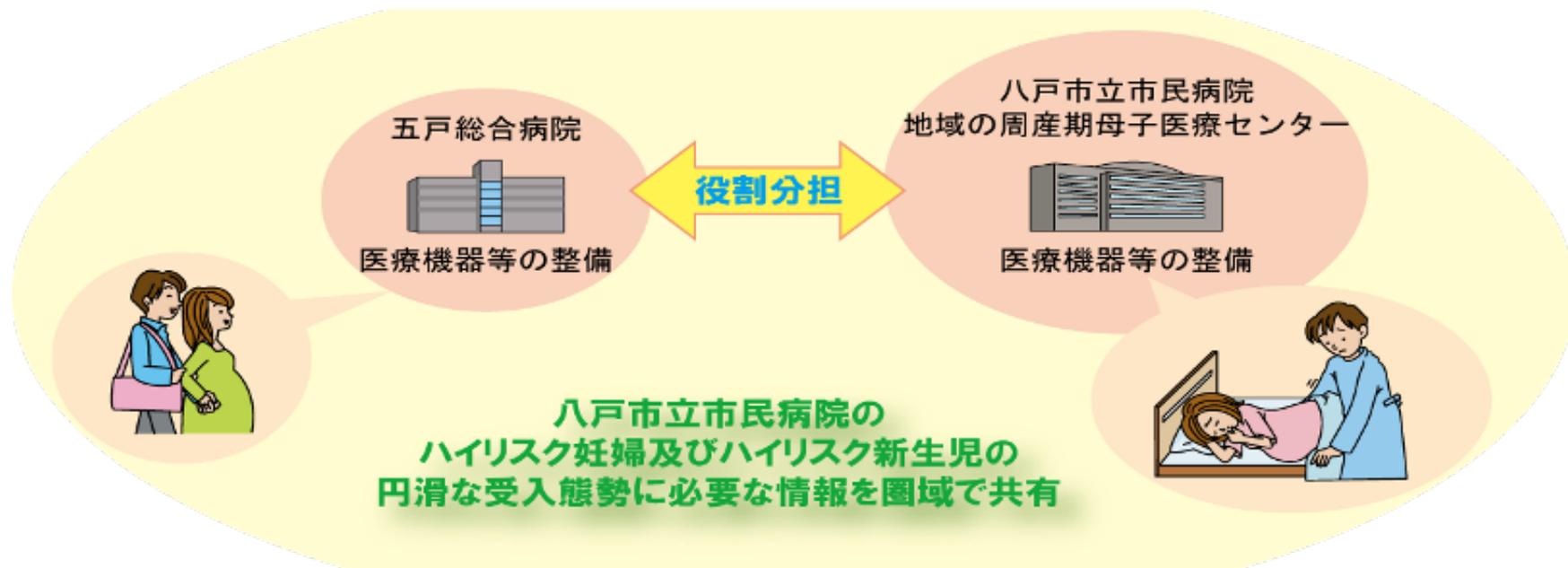
● 連携市町村 八戸市、五戸町

① 医療機器の整備

五戸総合病院、八戸市立市民病院(地域周産期母子医療センター)において、通常分娩の安全管理やハイリスク妊婦等の早期発見・安全管理に対応した医療機器等の整備

② 情報提供・共有

周産期における医療体制等の各種情報を住民に周知。また、八戸市立市民病院でのハイリスクな妊婦・新生児の円滑な受入に必要な情報を市町村間で共有



子育て支援の充実

●連携市町村 全市町村

八戸市が実施している各種の子育て支援事業の対象区域を圏域に拡大。

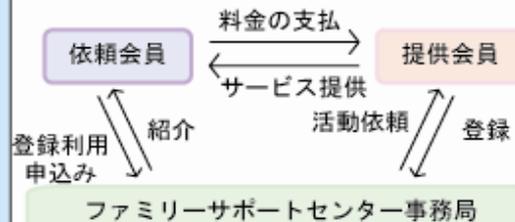
ライフスタイルに応じた子育て支援サービスの選択肢の充実

特別保育事業

- ・地域子育て支援拠点事業
- ・一時預かり事業
- ・休日保育事業



ファミリーサポートセンター事業



安心して子育てができる
環境の充実

市町村の行政区域の枠を超えて、子育て世代の交流の輪の拡充

子育てつどいの広場

子育てに関する
相談・援助活動
や子育て関連講
座等の実施



子育てサロン事業

八戸市内21箇所
で、圏域住民の
子育て世代の交
流の促進



圏域の子育て世代同士の
多様な支えあいの充実

農業振興に係る情報提供体制の構築

●連携市町村 全市町村

- ①農業体験情報、交流・援農情報、栽培技術情報及び農地情報について、農業への関心の程度や農業従事者のレベルに応じた情報提供の仕組みを整備
- ②八戸市農業交流研修センターの体制を拡充し、新規就農希望者に研修機会を提供するとともに、関係町村の住民に栽培技術情報を提供

- ・ 農業への関心の程度や従事レベルに応じた情報提供
- ・ 八戸市農業交流研修センターの体制の拡充

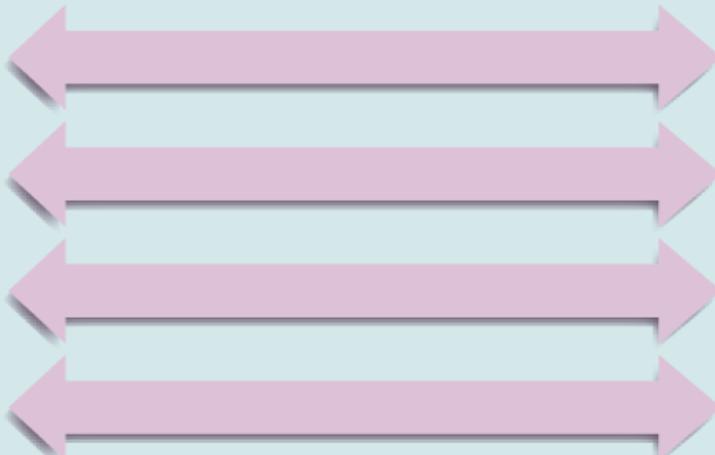
〈関心の程度・従事レベル〉

農業を体験したことのない住民

農業への関心を持ち、地域へ協力したい住民

新規農業者
農業従事者

拡大生産を希望する
農業者・法人



〈各種情報〉

農業体験情報

交流・援助情報

栽培技術情報

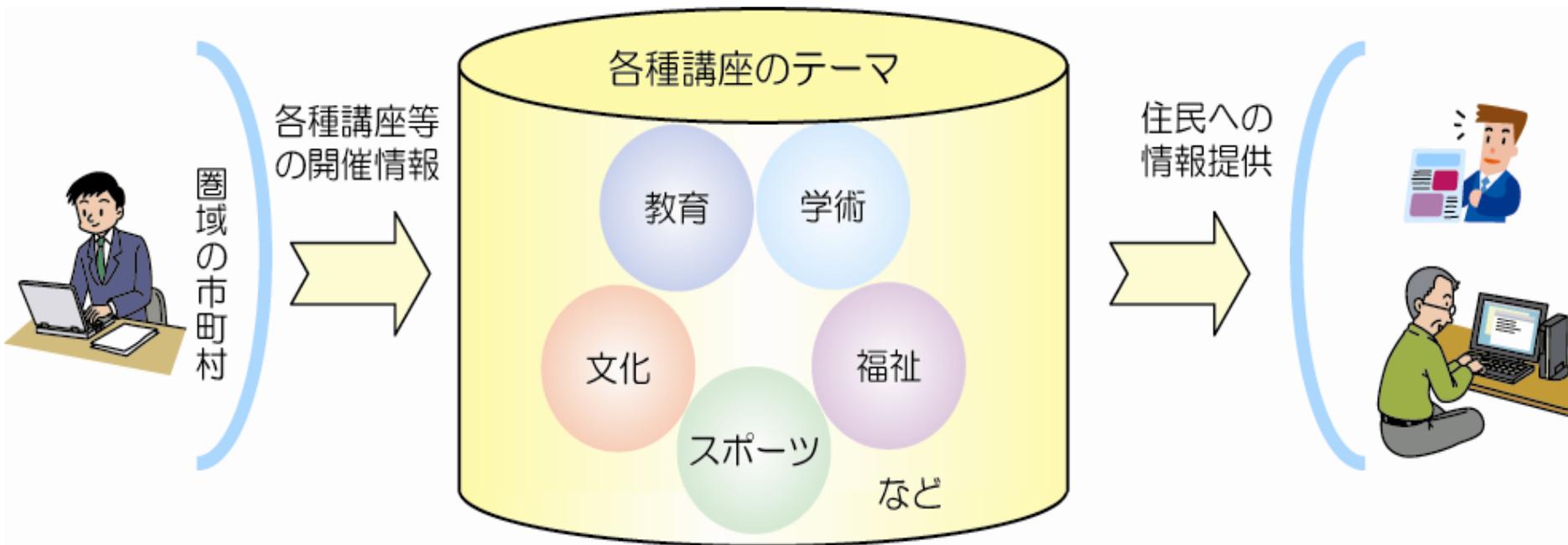
農地情報

農業の多様な担い手の育成

社会教育の推進

●連携市町村 全市町村

- ①八戸市民大学講座等の各市町村が実施している各種講座などについて、圏域内の情報を収集・共有する体制を整備
- ②広報紙やホームページなどの広報媒体を活用して地域住民への周知を強化



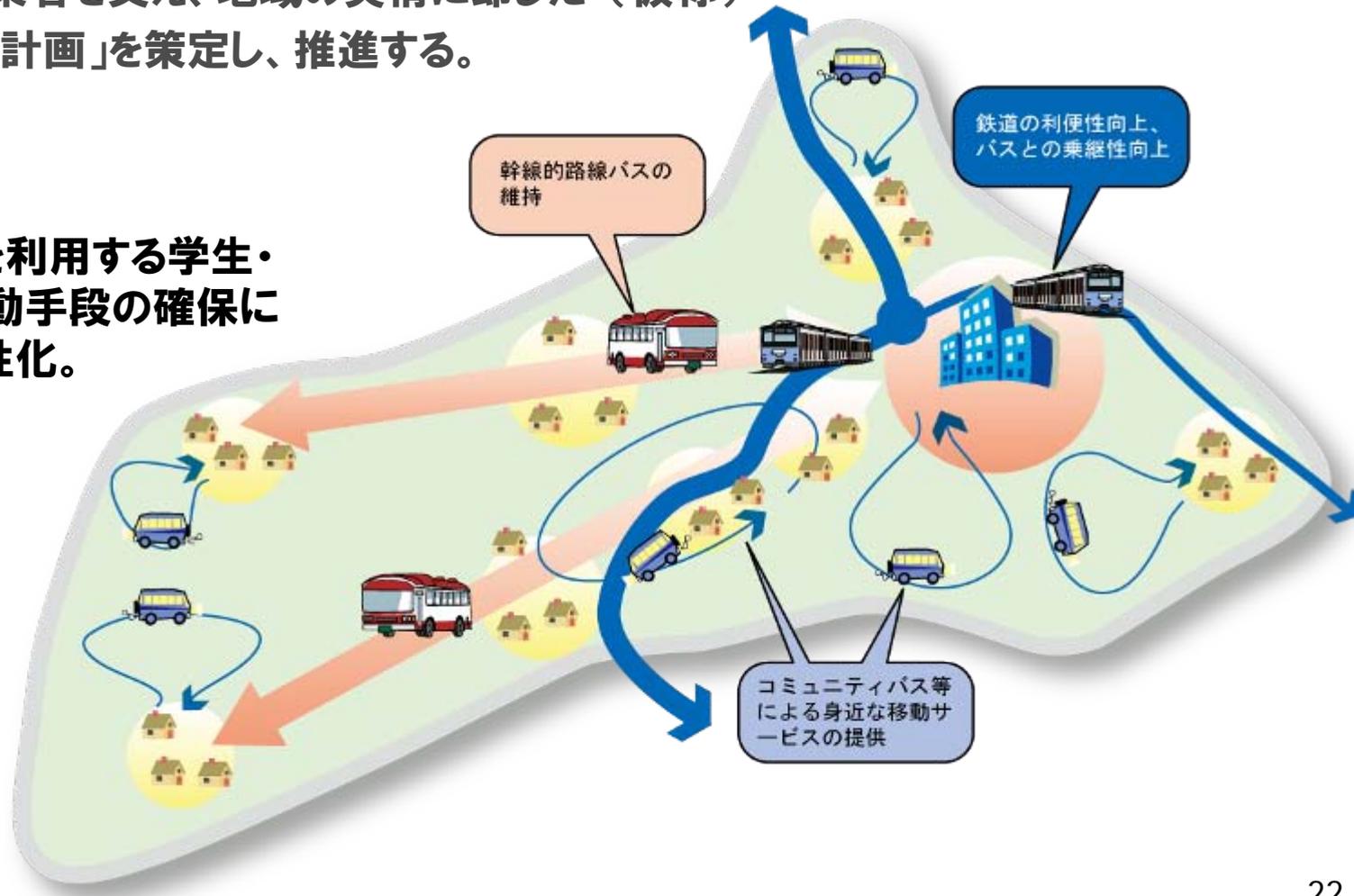
(仮称) 圏域公共交通計画の策定と推進

●連携市町村 全8市町村

公共交通事業者を交え、地域の実情に即した「(仮称) 圏域公共交通計画」を策定し、推進する。

【効果】

公共交通を利用する学生・高齢者の移動手段の確保による交流活性化。



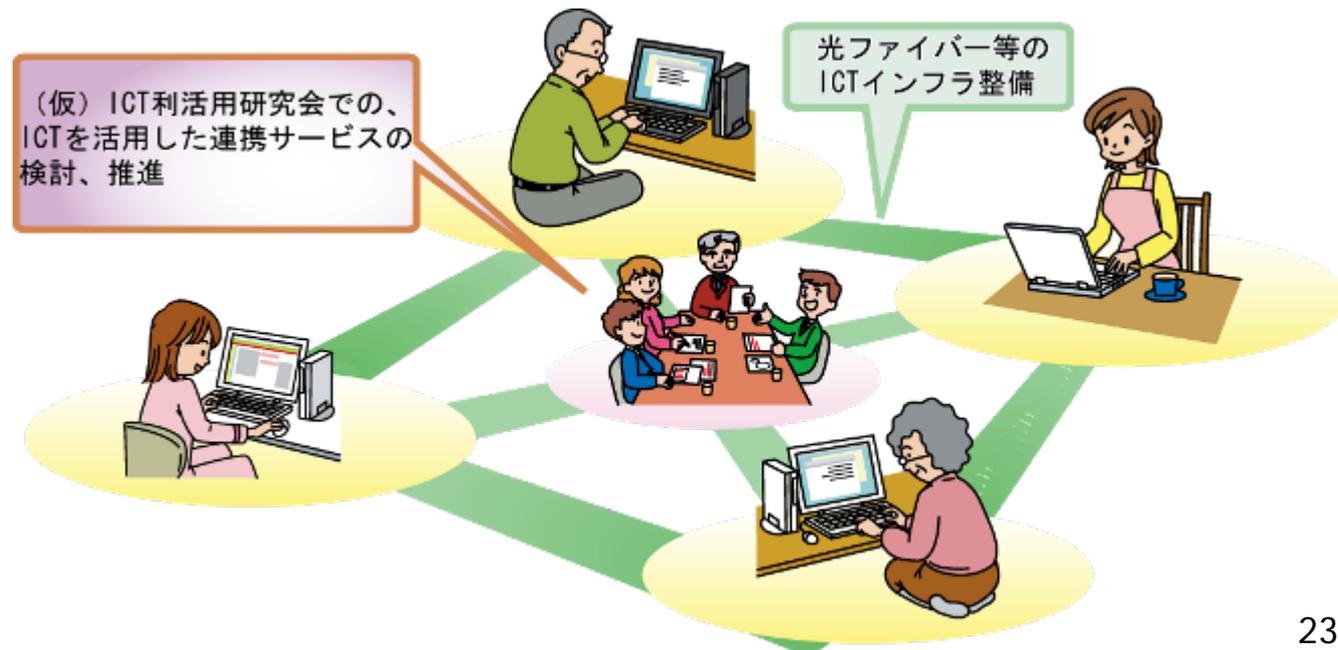
ICTインフラの基盤整備及び利活用

●連携市町村 八戸市、五戸町、田子町、新郷村、おいらせ町

①圏域内のデジタルディバイドを解消するため、ブロードバンドゼロ地域等に光ファイバー等のICTインフラを整備

●連携市町村 全市町村

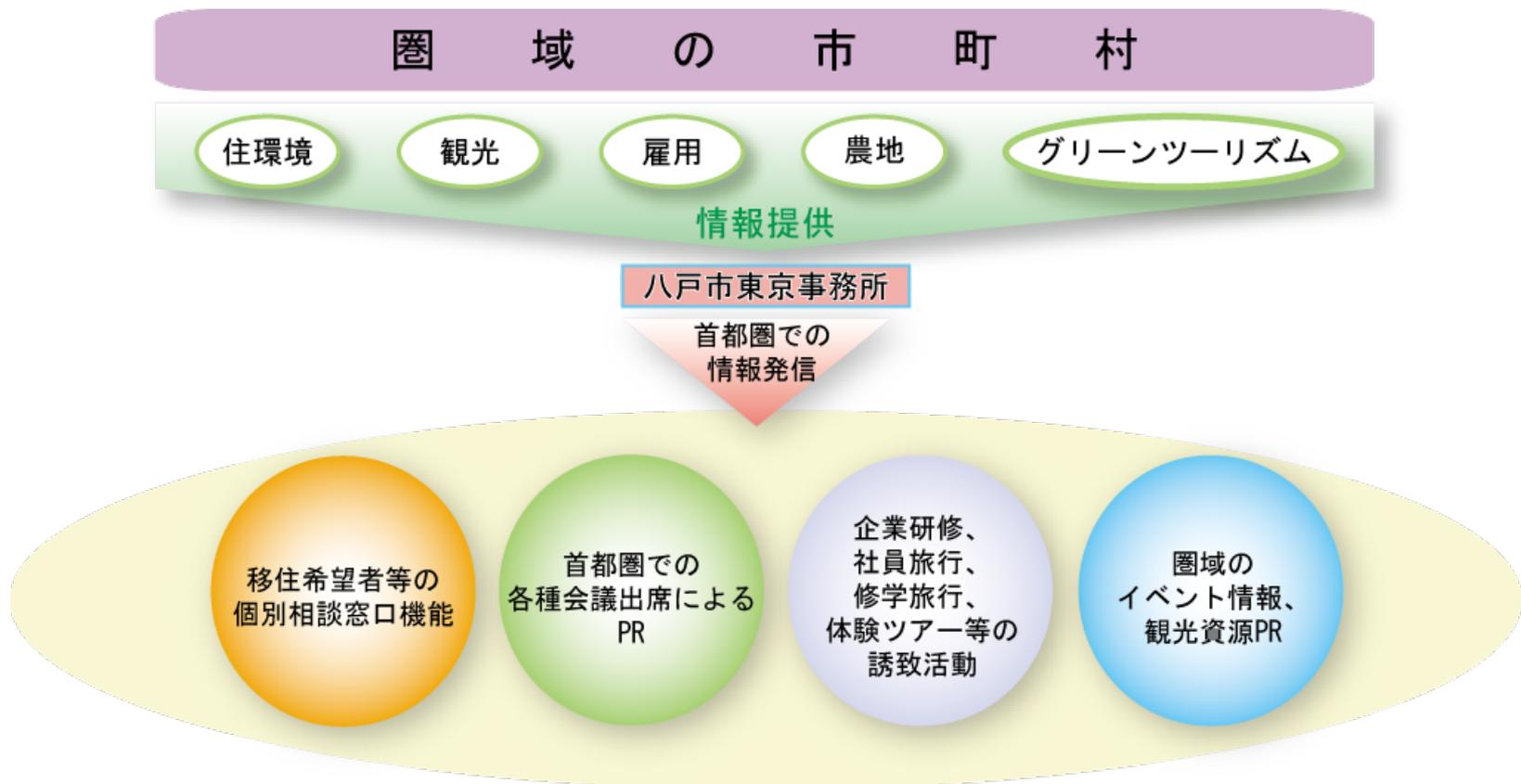
②圏域内の市町村等で構成する(仮称)ICT利活用研究会を設置し、ICTの積極的な利活用による有機的かつ効果的な連携施策を検討・推進



■ 八戸市東京事務所を活用した地域情報の発信

● 連携市町村 全市町村

八戸市東京事務所を活用して、圏域内の各種情報を発信するとともに、首都圏において圏域出身者を含めたUJターン希望者等の各種相談に対応



■ グリーン・ツーリズムの推進

● 連携市町村 全市町村

① 圏域内のグリーン・ツーリズムの推進を図るため、三八地方農業観光振興協議会の運営体制を整備

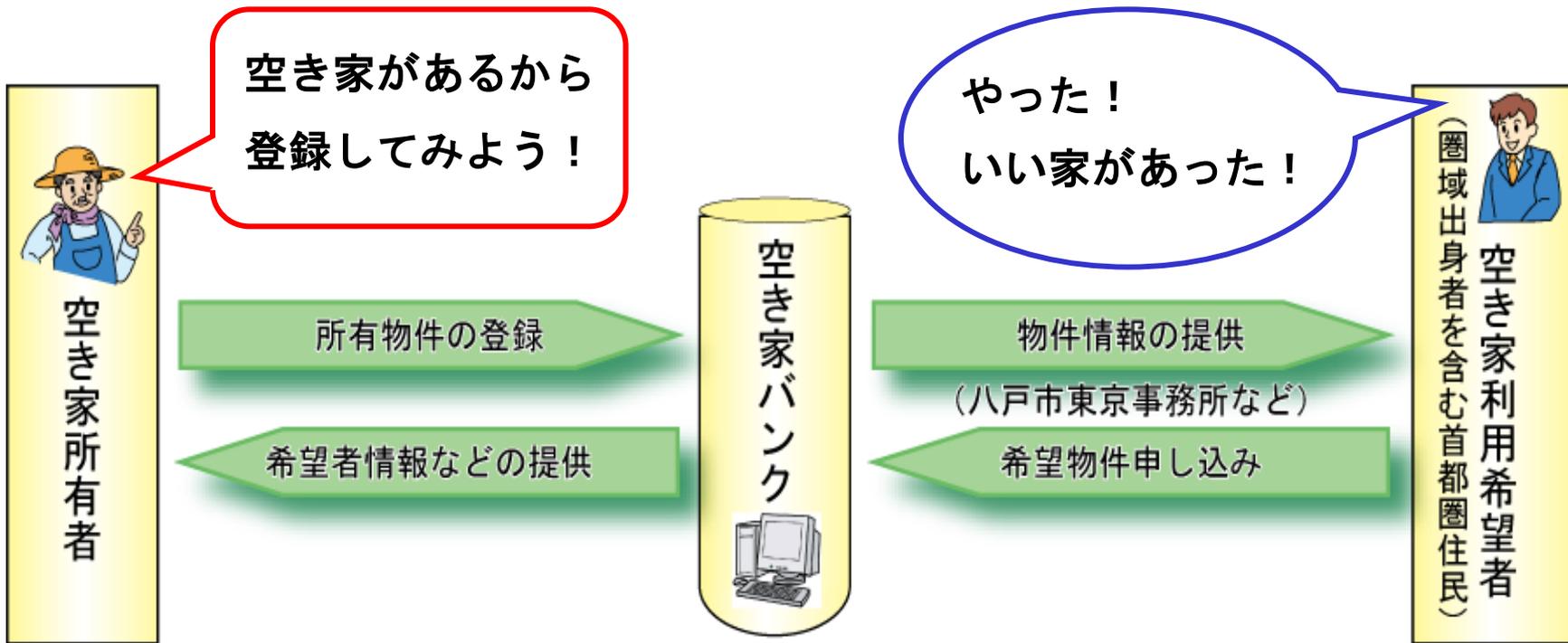
② 八戸市東京事務所を活用し、情報発信機能の強化



空き家バンクを活用した移住促進

●連携市町村 全市町村

圏域内の空き家情報を収集し、空き家バンクを構築するとともに、八戸市東京事務所を窓口として、圏域出身者を含めた首都圏住民に対し、空き家情報の発信を行う。



安全・安心情報システムの構築

●連携市町村 全8市町村

八戸市が運営している「ほっとスルメール」を圏域全体に拡大し、気象情報等に加え、各市町村ごとに独自の情報を提供できるシステムを構築。

圏域内の安全・安心情報システムの構築



■ 圏域内市町村職員の育成

● 連携市町村 全8市町村

- ① 現在八戸市が実施している各種職員研修プログラムについて、関係町村職員の参加の機会を提供するとともに、「(仮称)市町村交流スクール」として、圏域内各市町村職員の政策形成能力の向上を目的とした合同研修を実施。
- ② 八戸工業大学、八戸大学、八戸工業高校専門学校との3校と八戸市が連携して、

地域の政策課題について調査研究するために設置する、地域シンクタンクについて、関係町村職員に参加の機会を提供。



職員の資質と能力の向上

NPO等の活動促進

●連携市町村 全8市町村

- ①圏域内のNPO等が市民活動関連情報を共有できる仕組みを整備。
- ②八戸市市民活動サポートセンターが実施する各種市民活動支援事業への参加範囲を、各町村のNPO等及び住民に拡大。

